令和元年度 月刊 校長通信７号

（生徒・保護者版）　R元.10.30（１０月号）

俊英 NOW

10 月 12 日（土）に日本に上陸した台風 19 号は、長野県にも大きな被害をもたらしました。長野俊英高校も、千曲川の支流の氾濫でほぼ全校域が冠水し、校舎・体育館などすべての建物が床上数センチまで水につかりました。10 月 14 日（月）体育の日を出勤日とし、全職員で全校を覆った汚泥の処理、消毒、復旧に当たりました。10 月 19 日（土）の人工芝グランドの消毒整備作業にボランティア協力を募集したところ、多くの保護者の皆様、生徒諸君の参加を得て作業を進めることができました。こうしてようやく 10 月 21 日（月）の生徒登校再開にこぎつけることができました。皆さんのご協力に感謝します。

冠水した玄関前ロータリー

冠水した人工芝グランド

汚泥水に浸かった教務室

人工芝消毒のための消石灰散布作業

○湯本先生、結婚おめでとうございます！

保健体育科の湯本晃先生は、令和元年の初日５月１日に入籍し、10 月 6 日に挙式されました。素晴らしい結婚式でした。奥さまの和美さんは、の中学の同級生だそうです。

校長ESSAY

実は、非常にヤバかった！

私の自宅は、上田市の千曲川堤防のすぐそばにある。台風 19 号が最接近した 10 月 12 日（土）の夜、自宅周辺に「避難指示」が出た。豪雨の中、避難所に避難した。日付が変わって未明の 1:30 頃、雨が上がって月が出ていた。やれやれ一安心、これでもう大丈夫だろう。老母も家に帰りたいというし、というわけで家に戻ることにした。帰る途中、千曲川の様子を見てやろうと堤防道路を通って家に帰った。暗闇に目を凝らすと、こっちの堤防から向こうの堤防まで、摺り切り一杯の濁流がのたうちながらゴウゴウと流れていた。

夜が明けて朝が来た。ベランダから見ると千曲川は相変わらず凄まじい轟音を発しながら別所線の鉄橋の下を流れていた。鉄橋はいつものままだった。すると突然、別所線の踏切の警報機が鳴り出したのだ。8:00 のことだった。「まさか、別所線復旧か？」と一瞬思って千曲川方向を見るとナント別所線の鉄橋が千曲川に落ちているではないか。あり得ない光景に、しばし頭が混乱した。線路が水に浸かって通電し、一瞬警報器に電流が流れたのだろう。昨日の夜に通過した堤防道路が、鉄橋もろとも千曲川に崩れ落ちたのだ。実は非常にヤバかった。堤防崩落がもし５時間ほど早かったら、車ごと千曲川に転落していたかもしれない。堤防が全面決壊していたら、自宅が濁流に呑み込まれて大水害に巻き込まれていたかもしれない。首の皮一枚で事なきを得た。その後、私たちは弟の家に転がり込んで避難生活を続けたが、今回の体験は、生涯の教訓としなければなるまい。